陰謀論の分析とその対応に関する調査報告（要約版）

京都大学文学部　中島丈

本記事について

本記事は、2023 年 11 月に公開した「陰謀論の分析とその対応に関する調査報告」[1] の概要をまとめたものです。この記事は、インフォデミックとよばれる情報氾濫の時代において、しばしば曖昧に用いられている「陰謀論」という言葉を改めて整理して捉えることで冷静な議論のきっかけを作ることを目的に執筆されました。しかし、公開済みの記事は全 32 頁に及ぶため、要点のみをまとめ直した要約版を作成しました。したがって、より詳しい説明や参考文献に関しては、もとの記事を参照してください。なお、本資料の作成にあたっては、三上航志氏にコメントを頂きました。ここに記して感謝します。

▸ 陰謀論とは何か

日本国内外の哲学者や政治学者による陰謀論の定義や特徴づけを踏まえて、さしあたり、本稿では以下のように陰謀論を理解します。

- **陰謀論とは、ある社会的な出来事の原因を、有力者の秘密裡の策略に関連させて説明しようとする考え方である。**

▸ 陰謀論とその研究の歴史

ある出来事の背後に単純な因果関係を見出す**陰謀論的な思考は現代社会に特有というわけではない**とされます。その一方で、**陰謀論が学問的な研究の対象となったのは 20 世紀後半になってから**です。陰謀論研究の歴史の要点をまとめると、以下のようになります。

- 哲学的な分野では、1945 年にカール・ポパーが陰謀論は例外なく非合理的であると主張したのち、90 年代後半にチャールズ・ピグデンやブライアン・キーリーがポパーの方針を批判的に検討し、よい／悪い陰謀論を線引きする基準を設定することを新たな課題としたことで展開した。
- 2000 年代以降は、社会の情報化の進展や 9.11 同時多発テロの発生、またトランプ政権の誕生や COVID-19 の蔓延などによって陰謀論そのものへの関心や社会問題としての切実さが増大し、哲学だけでなく心理学や社会学、政治学でも議論が活発化した。

▸ 陰謀論の概念的分析

陰謀論という言葉は一般的に用いられる言葉ですが、それが何を意味しているかは改め

[1] URL: https://www.pandemic-philosophy.com/post/陰謀論の概念的分析と現状のまとめ

て検討する余地があります。陰謀論はしばしば「誤った考え方である」という漠然としたニュアンスで用いられますが、そのような**画一的な性質をもったものとして捉えることは正しくありません**。なぜなら、正しい陰謀論は存在し得るし、誤っていたとしてもそれを確証することは困難であるからです。したがって、陰謀論はより**多様な性質が重なり合ったもの**として「誤情報」や「フェイクニュース」といった他の概念とは区別して捉えることができますし、インフォデミックについて冷静に考えるうえではこれらの概念と混同して考えないことが重要です。

▸ 陰謀論が広まる理由

人々が陰謀論を信じ、その信念を主張する理由も多様です。同じように陰謀論を信じたり主張したりする人でも、その**陰謀論を内面化している度合いにはばらつきがあります**。つまり、本当にその陰謀論が真実だと信じている人もいれば、真実とは言い切れないとわかっていながらその陰謀論を広めている人もいるということです。典型的には、以下の二つの理由が考えられます。

- ある陰謀論が真実とは言い切れないとわかっていながら、政治的、経済的な動機といった何らかの目的のために、その陰謀論を道具的に利用する。（**外在的理由**）
- 認知バイアスなどの影響によって、あらゆる出来事の要因を有力者の策略とする陰謀論の世界観に安易に飛びつくことで、ある陰謀論を内面化する。（**内在的理由**）

▸ 日本における陰謀論

陰謀論は、日本でも実際的な課題として検討が行われるべき問題です。例えば、アメリカ連邦議会議事堂襲撃事件を引き起こした「Q アノン」は、「J アノン」や「神真都 Q」として日本社会に流入しているだけでなく、その発端には日本のネット掲示板文化が存在していることが指摘されています。とくに、日本国内で独特な発展を遂げた「神真都 Q」がワクチン接種会場に侵入する事件を起こしたことで、**日本でも陰謀論の拡散が小さくない影響を及ぼしうる社会問題である**ことが改めて認識されたといえます。

さらに、日本国内における陰謀論を、いわゆる「ネット右翼」的な言説の枠組みで捉え直す試みや、政治的敗者としてのリベラル派が陰謀論的言説を受容する可能性が十分にあるという研究も存在しており、陰謀論はより広範な射程で研究される余地があるといえます。

▸ COVID-19 に関する陰謀論

COVID-19 のパンデミック以来、COVID-19 に関する陰謀論も数多く展開されています。例えば、「ビル・ゲイツが、COVID-19 のワクチン接種を通じて、人々にマイクロチップを埋め込もうとしている」といったものです。このように、ウイルスの存在そのものやワクチン接種を有力者の利益と結びつける見方は様々なバリエーションで存在します。このような見方をする人は、しばしば COVID-19 のパンデミックは意図的に計画された「プランデ

ミック」であると主張しますが、ある出来事を強力な意図と関連させる説明であるという点で、**「プランデミック」という主張は典型的な陰謀論である**といえます。このようなCOVID-19 にまつわる陰謀論は少なくない人々が信じているものもあるようですが、公衆衛生上の問題を孕みかねない主張も存在するため、より積極的に対処がなされるべきです。

▶ 陰謀論に対する取り組み

陰謀論は実際的な社会問題として、政府・企業・個人といったさまざまな側面から複合的に対応する必要があると考えられます。具体的には、政府による公的な反論や、法の整備によるソーシャルメディアの規制、ファクトチェックの活用、メディアリテラシー教育の充実などが挙げられます。とくに、5 章で指摘したような**陰謀論の「単純さ」から距離を取る個人の心がけ**と、**それを支援する企業の取り組み**、**政府の制度設計**が重要です。

▶ おわりに

本稿では、社会問題として注目を集めている陰謀論という現象について、様々な側面から検討しました。本稿で強調して示したいのは、以下の 3 点です。

① **陰謀論という概念は多様な性質が重なり合ったものであり、「誤っている」といった単純なイメージでとらえるべきではない。**

② **人々が陰謀論を内面化する理由には、陰謀論が志向する「単純なものの見方」が関係している。**

③ **陰謀論に関する問題に対して単純な方法で対処することは困難であり、様々な側面から複合的に対処する必要がある。**